

2019年度 日本都市計画学会 学会賞〈計画設計賞〉の受賞について

■『気仙沼内湾ウォーターフロントの地域主体による復興デザイン-港町の景観・文化の継承と安全性の確保を両立した都市デザインの実現-』が、公益財団法人日本都市計画学会主催の「2019年度学会賞〈計画設計賞〉」を受賞いたしました。

【受賞理由】

以下内容から、津波災害の被災地における景観再生、活動事業の復興とその継続的な運営のしくみづくりを実現させた復興デザインとして日本都市計画学会計画設計賞に相応しいと判断されました。

- ① 市民が主体となって計画をすすめ、海と町が一体となった都市デザインによる港町の景観の再生に加えて、被災地における活動事業の復興にも貢献し得る機能用途を実現している。
- ② 防潮堤の計画に対して、津波に対する安全性の確保と、地域固有の景観・文化の継承のふたつを両立させるために要した各種の調整を行ったプロセスに、津波災害の被災地に対する復興デザインとしての新規性が認められる。
- ③ 地域住民と行政の協議による丁寧な合意形成を経て計画が策定され、複数の所有にまたがる施設の整備後の運営については、まちづくり会社を中心となってエリアマネジメントを進めている点も評価できる。



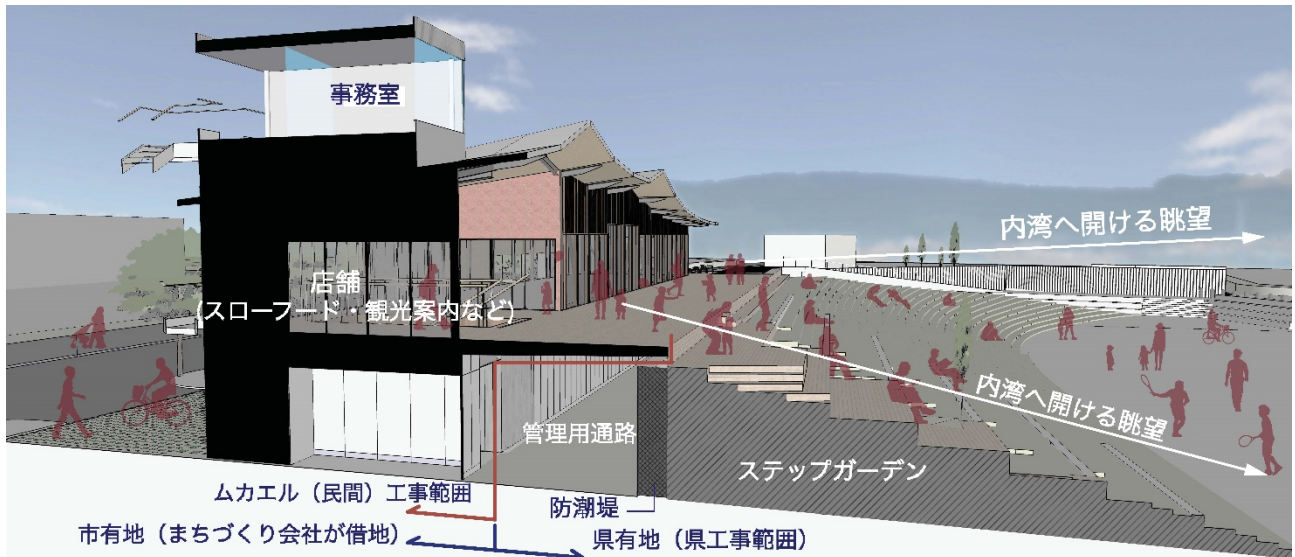
1 対象施設:「迎(ムカエル)」, 気仙沼市まち・ひと・しごと交流プラザ「創(ウマレル)」(pier7),
気仙沼漁港南町公園, 防潮堤

2 受賞団体:内湾地区復興まちづくり協議会, 早稲田大学都市・地域研究所
内湾ウォーターフロント設計チーム(合同会社住まい・まちづくりデザインワークス,
株式会社アール・アイ・エー, 有限会社オンサイト計画設計事務所,
ぼんぼり光環境計画株式会社), 宮城県, 気仙沼市

3 経緯

東日本大震災後, 復興計画の策定が急がれる中, 宮城県よりT.P+6.2mの防潮堤計画が示され, 多くの住民は美しい港町の景観, 文化, 営みが失われることを恐れ防潮堤計画に反対しました。これを契機に, 海とまちの連続性を確保するため, 市は, 平成24年 4 月にまちづくりコンペを実施し, 同年 6 月に内湾地区復興まちづくり協議会が設立されました。協議会では, 専門家, デザイナーなどの協力のもとにデザインワークショップを開催し, 市民が望むウォーターフロントの提案がまとめられ, 行政がその提案のフィージビリティ(実現性)を検討し, 最終的に水準点改定後の T.P+5.1mとなった防潮堤を, 海側は階段状のステップガーデンで, 内陸側はテラス付きの建物で覆い隠したデザインにすることで, 海とまちの連続性が確保されたウォーターフロントを実現させるとともに, 港町の景観・文化の継承と, 将来の津波に対する安全性の確保の 2 つを両立する復興モデルが生まれました。

また, 防潮堤・岸壁, 県道は宮城県が所管し, ムカエルはまちづくり会社が所管, ウマレル, 市道は気仙沼市が所管, 公園は宮城県と気仙沼市がそれぞれ混在して所管しているなど, 公共空間の所有・管理区分が複雑である問題を解決するため, まちづくり会社が中心となり, ウマレルの指定管理を始めとする, 官民にまたがる空間の一体的な管理と利用促進の工夫がなされたエリアマネジメントを進めています。



【日本都市計画学会賞とは】

日本都市計画学会賞は、「石川賞」及び「同奨励賞」、「論文賞」及び「同奨励賞」、「計画設計賞」及び「同奨励賞」があり、今回受賞した「計画設計賞」は、都市計画に関する計画、設計、事業などに関する近年の作品で、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をしたものが対象となります。

関連する市震災復興計画重点事業
No.2「被災市街地復興土地区画整理」